

オオシラビソ稚樹移植等の作業

(令和5年7月まとめ)

山形森林管理署



東北森林管理局広報誌
「みどりの東北」スマホ版アクセスQRコード

1

内 容

オオシラビソ稚樹を探します
オオシラビソ稚樹を掘り取ります
オオシラビソ稚樹を運びます
オオシラビソ稚樹を植えます

ササを刈り払います

オオシラビソの種子を採ります
オオシラビソの種子を選り分けます
オオシラビソの種子を播きます

2

オオシラビソ稚樹を探します



ゲレンデ沿いはササもなく光環境がよいので稚樹が見られます。何本か生えていることもあります。この場所での次の世代となるものを残しておくようにします。大きくなるほど、掘取りや運搬、移植がたいへんになります。

3

オオシラビソ稚樹を探します



ゲレンデを歩いていくと稚樹が生えていることもあります。



4

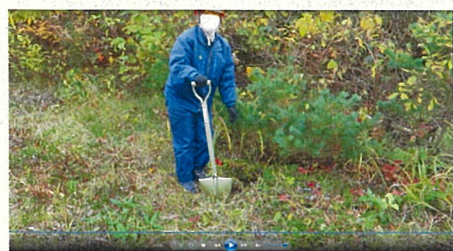
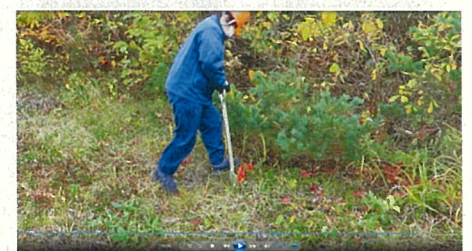
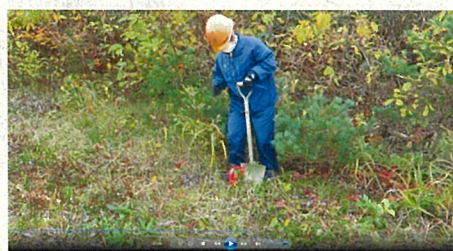
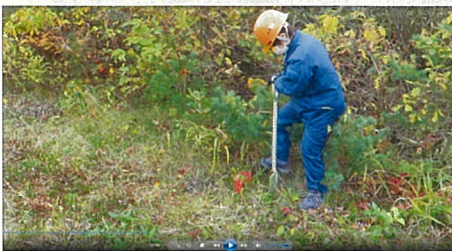
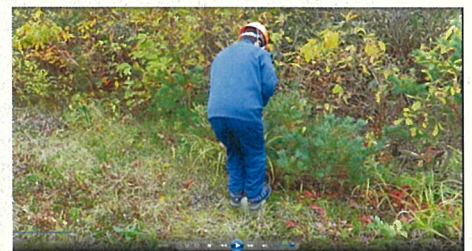
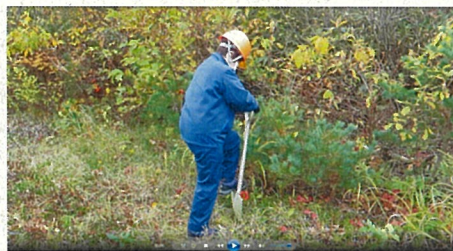
オオシラビソ稚樹を掘り取ります



稚樹の高さと同じくらいの直径を目安として、周囲にスコップを差し入れていきます。一周したらテコの原理で根鉢全体を徐々に浮かせて持ち上げます（次ページ）。

5

オオシラビソ稚樹を掘り取ります



稚樹の高さと同じくらいの直径を目安として、周囲にスコップを差し入れていきます。一周したらテコの原理で根鉢全体を徐々に浮かせて持ち上げます。周囲から樹木の硬い根が伸びてきていると、作業に労力がかかります。

6

オオシラビソ稚樹を掘り取ります



場所にもよると思いますが、経験的には、オオシラビソの根系は思ったほど発達していません。根系の周囲の土壌も含めて掘り取り、植えると活着がよいようです。写真のように根系がむき出しにならないように気をつけます。掘り取った後の穴には、周囲の土を寄せるなどして、林地の改変の程度が小さくなるよう配慮します。



7

オオシラビソ稚樹を運びます



掘り取った稚樹を運ぶため、大きさに応じて土のう袋などに収納します。土がこぼれ落ちないようにするためのほか、乾燥を防ぐためといった目的があります。

8

オオシラビソ稚樹を運びます



ほとんどは根鉢の土の重さですが、稚樹の大きさによっては一人では運べません。高さ20cm程度で運ぶ距離が長くなければ手に提げて運べますが、かなりの労力を必要とします。運搬を人力で行う場合は、作業規模や効率が制限されます。

9

オオシラビソ稚樹を植えます



稚樹を植える場所に運び込み植えます。根鉢が収まるような深さと直径の穴を掘ります。植える箇所に根鉢を置いて周囲にスコップを差し入れて一周していくと、ちょうどよい穴を掘れます（次ページ）。掘った穴に根鉢を置き、周囲を足で踏み固めます。掘り出した土は、ほぐして根元などに戻します。



10

オオシラビソ稚樹を植えます



植える箇所に根鉢を置いて周囲にスコップを差し入れて一周していくと、ちょうどよい大きさの穴を掘れます。穴を掘る作業は、ササの根の張り具合などによって、労力が変わります。次ページに続きます。

11



掘った穴に根鉢を置き、周囲を足で踏み固めます。掘り出した土は、根元などに戻します。

12

ササを刈り払います



オオシラビソ林の地面（林床）にはササが生い茂っており人の背丈ほどもあります。稚樹の生育を助けるためにササを刈り払う必要があります。ササは再び茂ってきますので、少なくとも数年に1回は刈り払いが必要となると考えられます。刈り払ったササは、周辺の林地に還元します。



ササに分け入って目の高さで写真を撮るとこのような感じです。

13

ササを刈り払います



稚樹を移植する区画はササを刈り払う必要があります。

左の写真は比較的広い面積を刈り払う様子で【全刈り】と称します。このほか刈り払いの形状に応じて【筋刈り】や【坪刈り】があり、使用器具も使い勝手に応じて使い分けます。

広い面積を刈り払うには刈り払い機が、笹の中に分け入って部分的に刈るには手工具が有効と考えられます。



刈り払いには、刈り払い機（ガソリン式と電動式があります）、鎌、ナタ、剪定鋏等を使います。刈り払い機を使用する場合は、作業の安全を確保するため、講習を受けておくことが望まれます。手工具の使用にも刃を振るう方向に手足など置かないよう、また、不安定な姿勢のまま刃物を使わないよう気をつけます。

14

ササを刈り払います



ササはオオシラビソが育つ上で光を取り合うライバルですが、一方で、稚樹を強風等から保護してくれている可能性もあります。稚樹の生育を促す上で、ササを刈り払う程度や形状についてや、刈り払った後、ササが再生してくる時間についても知見を得ていくため、試行と観察が必要です。



15

オオシラビソの種子を採ります



オオシラビソの球果（まつぼっくり）には豊凶があります。豊作年には球果を採取し種子を確保します。球果は木の頂上付近になりますので、先端に刃物をつけた長い竿を使います。木のためにはやぐらを組むなどして、手で丁寧に採るのがよいそうですが、安全のためこのような方法で採取しています。



16

オオシラビソの種子を採ります



球果がつくのは秋口です。乾燥してくると球果が開いて種子が飛散してしまうので、その前に球果ごと採取します。だいたい9月中下旬頃の作業になります。

17

オオシラビソの種子を選り分けます



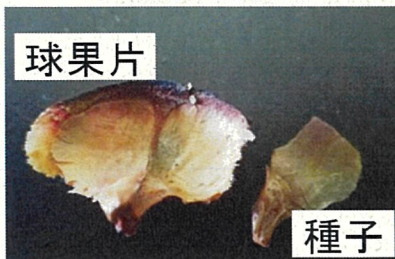
球果粉碎



翼の分離



風選

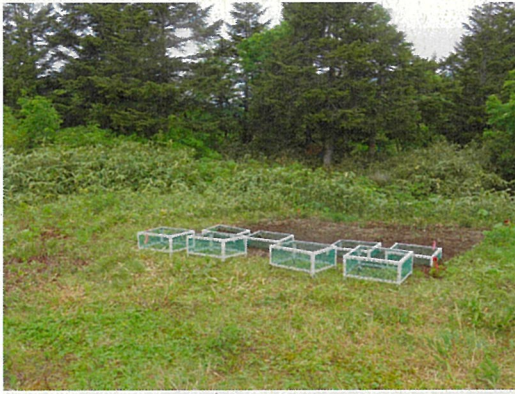


提供：山形県森林研究研修センター

球果は持ち帰って数日間乾燥させてから粉碎し、球果片と種子を分離します。保存する場合は冷蔵します。

18

オオシラビソの種子を播きます



種子を播くと発芽し成長を始めます。播いた種子はネズミに食べられてしまうので、金網をかぶせています。発芽した後は、食べられることはないようです。